



長瀬小学校 人権・同和教育通信

2005年2月

「命は一つしかないこと」

かつて、「ちがうことばんざい」という詩（資料、裏面掲載）を使って、「いろいろな人がいるから、いろいろなことが学べるんだ。」「人それぞれにちがいがあるからすばらしい。」「ちがいを大切にしていきたいものですね。」ということを学習した時のことです。「みんなが同じでないと困ることってなんだろう。」と問いかけた時、いろいろ出てきたことの中に「みんな生きてること」「誰でもみんなが命をもっていること」「どんな人でも、命は一つしかないこと」が同じ、という答えが返ってきました。当たり前のことだから流してしまうかと思っていましたが、子どもがそれに立ち止まったことに「子どもの感性って、すごい！」と思いました。

大きな人にも一つ、小さな虫にだって一つ、この地球に存在するものには、すべてに命があるのです。それぞれに一つだけ。だから自分の命も他人の命も、すべてのものの命が大切にされなくてはならないのです。ところが最近では、その命が簡単に奪われてしまう不幸な事件が増えています。命を大切に、誰にでも優しい心で接することができる人になってほしいですね。そんな思いで学校では人権・同和教育をしています。

みんなが生きている

人が生きている
ありんこが生きている
土が生きている

とんぼが生きている
水も生きている
ほら、空気だって生きている

石ころだって生きているよ
雑草はつよく生きている
めだかが生きている

みんな生きてるんだ
みんなが生きたために
みんなのつきあいかたを考えよう

人権読本「じんけんの詩」うたより

「いのち」を大切にし、人を、自然を、地球を大切にして、すべての人が幸せな生活をおくるために、「みんな」の意味を考えて、それぞれが「みんな」とのつきあいかたを考えていきたいものです。まずは、自分の周りから・・・。

じんけん がくしゅうかい かいさい あんない
人権 学習会 開催 のご案内

にちじ がつ いつか ど
日時 3 月 5 日 (土)
よる じ ぶん じ
夜 7 時 3 0 分 から 9 時まで

ばしよ ひ な ち ぶん か
場所 比奈知 文化 センター

きょういく しゅうかいじよ

教育 集会所

こうし かわぐち やすし
講師 川口 泰司 さん

おおさかし しんおおさか じんけん きょうかい
(大阪市 新大 阪 人権 協会)

えんだい
演題 「たいけん はっけん ほっとけん」
— さべつ 差別 っ て い っ た い 何 や ね ん —

3月3日は、1922(大正11)年のこの日、自らの力で部落差別をなくそうとする人々が全国から京都に集まって、全国水平社が創立され、解放運動の出発の日です。

「人の世に熱あれ 人間に光あれ」で結ばれる水平社宣言が出されました。日本の“人権宣言”にあたるもので、世界人権宣言が制定(1948年12月)される前に作られました。

ちがうこと ばんざい

私のまわりには いろいろな人がいる
男の人 女の人
背の高い人 低い人
遊びの得意な人 苦手な人
声を出して 話す人 声を出さずに 話す人
松葉づえをついた人 車いすに乗った人
みんな みんないっしょに
それぞれ ちがった生き方をしている
みんな顔が同じなら
考えていることが同じなら
することも同じなら
ちっともおもしろくない

君の代わりは だれもいない
ぼくの代わりも だれもいない
みんなちがうから
ひとりひとり たいせつな人間なんだ
自分も人も たいせつな人間なんだ

世の中には
いろいろな人がいて
いろいろな考えがあるってことを
それぞれ 特ちょうをもった生き方があるってことを
ひとつ ひとつ知っていきながら
人間は大きくなっていくんだ
そして 深くなっていくんだ
みんな ちがうから すばらしいんだ